

技術基準解釈通達 別表第十の見直しについて

2020 年 3 月 20 日

電波雑音部会

昨今の電気用品を含む電気製品の発展は目覚ましく、IoT 化、省エネ化、AI の活用、自律したロボットとして動作するものまで多種多様な進化を遂げています。しかしながら、別表第一～第十一の技術基準解釈通達は、その施行以降、一部を除き大きく改正されることはなく、特に別表第十については、平成 2 年に施行されて以降、2 度の微修正がなされたのみで、その内容はほとんど変更されていません。

このため、別表第十を別表第十二の表 2. 雑音の強さに関する基準で採用する CISPR の最新版に対応したものに置き換えることを主とする見直しを行うこととし、検討方針等を 2020 年 2 月 3 日に開催された第 50 回電波雑音部会において審議し、了承されましたので報告いたします。

1. 検討方針

以下の方針が了承されました。

- 別表第十第 1 章で指定する章（許容値、測定方法などの規定）を別表第十二解釈基準に変更する。
- まずは最も状況の変化が著しい照明器具について検討を行い、3 段階程度に分けて雑音の強さ試験が適用される全ての用品についての検討を完了させる。
- 限られた分野の検討となることから、電波雑音部会下に WG を設置し、そこで検討を進める。

下表は別表第十第 1 章の抜粋

別表第八 電熱器具

電気用品名等		適用章別
政令品名	省令における細部品名等	
電気便座 電気足温器 電気スリッパ 電気ひざ掛け 電気座布団 電気カーペット 電気敷布 電気毛布 電気布団 電気あんか 電気いすカバー 電気採暖いす 電気こたつ 電気ストーブ 電気火鉢 その他の採暖用電熱器具		5

2. 審議体制

照明機器分野の委員を中心に、少人数の WG を設置する。

メンバー募集は 2020 年 4 月末とし、5 月頃に第 1 回 WG を開催する。

3. 今後のスケジュール

数回の WG を開催し、途中、電波雑音部会への報告・確認作業を行いつつ、1 年を目処に審議を進める。

審議の内容に応じて、3 段階程度で雑音の強さ試験が適用される全用品の審議を完了させることを目標とする。

別表第十二基準はまだ準備中のものもあり、現時点で全ての適用基準が整備されているとは限りません。また、別表第十には適用できる特別な規定があっても、別表第十二には存在しないものもあるかもしれません。それらへの対応を含め、全ての適用基準の見直しを実施いたします。

以上